

実験 1

水防災実験素材

災害時に必要なものを考えよう

実験の概要

災害時に必要なものをゲーム形式で考えます。

実験のねらい

水災害が起き避難などの対応をとらなければならなくなったとき、必要なものを急に準備することは困難です。

本実験では、避難などの災害対応に必要なものを考えてみることによって、日ごろの備えを含めた防災に対する知識を得ていただきたいと思います。

児童が帰宅後にこの学習内容を話すことで、家族においても防災グッズを用意するなど、防災意識を高めることにつながると考えます。

実験の前に

水災害が発生するような大雨になり、避難所で数日間生活することを想像してみましょう。家の中のように便利なものばかりがあるわけではありません。夏は暑いかもしれないし、冬はそれこそ寒いかもしれません。

いずれにしても対応中は健康を保ち、事後は速やかに元の生活に戻らなければなりません。まずはこのような状況をイメージし、実験をはじめてください。

また、状況によっては自宅に対応することも考えられますし、災害直後とその後でも必要なものは異なってきます。

それぞれの状況に応じた防災グッズについて、想像力を膨らませて考えてみるができるよう、複数のケース(自宅待機、数日の避難など)で実施してみることもお勧めです。

用意するもの

自宅や学校にあるもの*を描いたカード数十枚(グループ分用意する)

*)防災グッズ(救急箱、ハザードマップ、タオル、ラジオ、懐中電灯等)、家電製品(電子レンジ、オーブントースター、アイロン等)、パソコン、カメラ、ビデオ、携帯用ゲーム機器、トランプ、オセロ、バイオリン、本など

実験の準備

クラスをいくつかのグループに分けておこなうと良いでしょう。

水防災実験素材

実験の手順

1. 自宅や学校にあるいろいろなものを描いたカードをグループごとに配る。



2. グループ単位で、災害時に必要なものを考え、必要なものが描いてあるカードを一枚ずつ選び出す。



3. グループ単位で、必要と考えて選んだ理由を話し合う。



4. 3の結果を発表し、クラス全体で災害時に必要なものを話し合う。



実験に際してのポイント

本実験では、緊急避難を想定し、数日間避難所で生活する場合に必要なものを選び出す例を示しています。

「非常用持ち出し品」としては、非常食、軍手、ガムテープ、ビニール袋、救急セット、ロープ、携帯用ラジオ、乾電池、カイロ、レインコート、タオル等の防災グッズが考えられます。冬季には防寒になるもの(厚手の服や毛布などのほか、身近な廃品も防寒に使えます→実験4を参照ください)も必要です。重要なのは、**“余計なものは持ち出さない”**ということです。携帯用ゲーム機が必要という児童もいるかもしれませんが、ふだん自宅で使っている家電製品は持ち出しません。

実際には、“避難”といってもさまざまなケースがあります。以下のようなケースについて、それぞれ必要なものを考えてみると良いと思います。

避難のケース例：

- ・ 自宅で待機する場合
- ・ 自宅で待機していて停電になった場合
- ・ 家族で避難できる場合
- ・ 留守番していて一人で避難する場合
- ・ 避難が長引きそう(一週間程度)な場合

また、避難の直後とその後など時間的な違いによっても必要なものは変わってくると思います。

例えば、避難所生活が長引きそうな場合には、あったら便利・楽しいと思うもの(例えば、ゲーム、テレビ、DVDなど)も必要という意見が出てくるかもしれません。

正しい答えはないのですが、避難生活をイメージして考え、「普段から準備しておこう」と思うことが大切です。

参考資料

防災グッズについての参考資料は、インターネットで調べることができます。以下に例を示します。

総務省消防庁

(<http://www.fdma.go.jp/html/life/sack.html>)

国土交通省

(http://www.mlit.go.jp/river/pamphlet_jirei/bousai/saigai/kiroku/suigai/suigai_4-1-2.html)

など

防災グッズの例：

現金、貴重品(印かん、貯金通帳を含む)、連絡先一覧、

救急箱、くすり、

非常食、飲料水、缶切り、紙皿・紙コップ、

衣類(くつ下を含む)、手袋、毛布、タオル、洗面用具、

ひも類、ビニール袋、ティッシュペーパー、万能ナイフ、ガムテープ、

ライター、マッチ、懐中電灯、ろうそく、ラジオ、予備電池、

リュックサック、シート(敷物)、ヘルメット、ハザードマップ